

文学研究科 修了者のキャリアパスの事例

文学研究科は、1999（平成 11）年 4 月の日本文化専攻修士課程開設以来、国内外の学術・教育・文化をはじめとする各界に有為の人物を輩出してきた。

本学は、開学の翌年にあたる 1953（昭和 23）年に 2 部（夜間部）を設置し、1993 年に開設され、後に文学研究科の母体となった人文学部も、日本文化・英米文化両学科に 2 部を開設している。文学研究科は、こうした本学の伝統に倣い、開設当初から長期履修制度を設け、授業の夜間開講を原則とすることで、広く北海道内外に研究の場を提供している。さらに 2024 年度からは、本学が 2021（令和 3）年に制定したミッション・ビジョンのうち、ビジョン 3 に掲げる「可能性に開かれたキャンパス」を実現する一環として、道内の遠隔地在住者はもとより、勤務時間の関係や障碍などの理由によって望んでも就学が叶わなかった人びとに対して広く大学院の門戸を開くべく、修士課程を対象に双方向型リアルタイム遠隔授業も開始している。

修士課程では、日本文化・英米文化専攻ともに、言語学・文学・思想史・史学・文化人類学などの人文学の専門分野と、これらの学際的な研究・教育をとおし、将来、持続して研究活動を行うにたる基礎的かつ汎用的な能力・知見・倫理的規範などを有する人物の育成を目指すしている。

修士課程修了後の進路は、大学・高等学校の教員、博物館の学芸員、日本語教師など多岐に亘る。また、修了者のうち、少なからずの者が博士（後期）課程への進学し、自らの研究テーマをさらに追究している。

博士（後期）課程では、日本文化あるいは英米文化を研究対象として人文学の専門分野において、研究者として自立した研究活動を行うにたる高度な能力・知見・倫理的規範などを有する人物の育成を目指すしている。とくに近年は、大学や高等学校の教員、博物館の学芸員をはじめとする社会人の入学が多く、将来、研究職を目指す者はもとより、教師として、あるいは学芸員として、研究テーマのさらなる追究によって自らが拠って立つ場を踏み固めようとする学生が増えている。

したがって、文学研究科は、修士・博士（後期）課程を通じて、社会人のリカレント教育機関としての役割も果たしているといえる。